

平成 27 年度第 1 回北海道立生涯学習推進センター運営協議会専門部会会議記録要旨

1 開催日時

平成 27 年 8 月 19 日（水）13：30～15：00

2 開催場所

札幌市中央区北 2 条西 7 丁目 1 番地 かでる 2・7（8 階）

北海道立生涯学習推進センター創作実習室

3 審議等の内容

(1) 説明事項

ア 北海道立生涯学習推進センター運営協議会専門部会年間計画等について

イ ほっかいどう生涯学習ネットワークカレッジ（道民カレッジ）について

ウ 道民カレッジ連携講座ジュニアコース新設について

(2) 議事

ア 道民カレッジジュニア学生（小中学生）から一般（高校生以上）への接続方法について

イ 「生涯学習の振興に関する基礎調査」における項目について

(3) 報告

ア 連携講座新規団体の申請について

イ 平成 27 年度後期道民カレッジ指定講座について

4 出席者

- 北海道立生涯学習推進センター運営協議会専門部会委員（部会長、以下委員五十音順）
三上部会長、宇山委員、喜多委員、楠委員、小賀委員、今委員
- 北海道立生涯学習推進センター職員（運営協議会事務局）
阿部所長、柴田主幹、柴野主査、會田主査、久保主査、本田主査、石手洗主任

5 審議等の概要

事務局による説明の後、委員が意見を述べた。主な発言は次のとおり。

（以下、発言順の掲載 ○委員 ●事務局）

(1) 説明事項

①北海道立生涯学習推進センター運営協議会専門部会年間計画等について

- （専門部会年間計画及び設置要領について説明）

②ほっかいどう生涯学習ネットワークカレッジ（道民カレッジ）について

- （道民カレッジの概要等について説明）

③道民カレッジ連携講座ジュニアコース新設について

- （ジュニアコースの新設の経緯及び昨年度の部会での協議内容について説明）

(2) 議事

①道民カレッジジュニア学生（小中学生）から一般（高校生以上）への接続方法について

- （単位移行によるメリットやデメリット、全国の取組状況について説明）
- 確認ですが、小中学生がジュニアコースで取得した単位については、その小中学生が高校生となり、一般のコースへと移行した際に、既に取得している単位をどのように換算するかということですね。

資料4の事務局案では、単位を移行する3つの案が示されていますが、全く単位を移行しないことも考えられますので、4つの案があるという認識でよろしいですね。
- 例えば、ジュニア学士を取得し、一般へ移行した場合に、称号としてジュニア学士をもち続けることができるのか。または、一般に移行した際には、ジュニアの称号が自動的になくなってしまうのでしょうか。
- 一般に移行しても、ジュニアで取得した称号もそのまま引き継いでいくようにと考えています。
- 生涯学習ですから、学習歴を積み重ねていくことも大切です。以前に取得した称号もそのまま移行していくことを考えています。
- 生涯学習として、どのような制度設計がよろしいのかをゆっくりと検討していけたらと考えていますので、その都度、情報提供いただきたいと思います。
- 資料4に記載のある他県の取組状況ですが、ジュニア向けカレッジを実施している3県のうち2県は、一般へ移行した際に全ての単位をそのまま移行しているようですが、それぞれの良さや課題をお聞きになっていますか。
- 県によって学習システムが違っていますが、この2県は子供も大人も同じ単位認定基準になっています。全ての単位をそのまま単位移行する方が事務処理がスムーズに行われるのではないかと思います。
- 道民カレッジの場合は、一般は1時間で1単位が認定されます。ジュニアは1講座（1日日程）あたり1単位となっています。それぞれの講座では違うと思いますが、ジュニアコースでは、どのくらいの学習時間で1単位を取得することができるのでしょうか。
- 道立のネイパルの1泊2日の主催事業では、2単位取得することができます。午後から開始し翌日の午後までの日程が一般的な例です。1日に換算すると4時間程度です。直接学習に関係しない時間もありますので、正味2時間程度で1単位が取得できる換算になるかと考えます。
- ジュニアコースは、座学ではなく、体験活動が多いのですか。
- 座学もありますが、体験活動が多いです。
- ジュニアコースは、体験活動が多く、一般のコースとは学習内容が違い、単位認定や称号授与も違うようです。ジュニアと一般の学習システムが違うのでしたら、ジュニアコースで完結させ、高校生になった時に、新たに一般として一斉にスタートしたほうがすっきりするのではないのでしょうか。

単位を移行しないことが学習意欲の低下につながると懸念するのであれば、一斉に新たな学習システムでスタートするほうが良いのではないのでしょうか。

小中学生のうちに道民カレッジを入学し学習していた子と学習したくてもできなかった環境の子がいたとしたら、差が出てしまいます。新たに高校生から同じ学習システムでスタート

できる方が良いのではないかと考えました。

- 単位を移行するか否かをどのように考えるか、まさに核心です。
- ジュニアで取得した単位を全く移行しないのは、小中学生時代に一生懸命に学習を続けてきた子供たちにとっては、かわいそうかなと思ひ、選択単位に優先して単位を移行する案を提示させていただきました。これまでの子供たちの頑張りを考慮したいという形の提案であります。
- 例えば、ジュニアコースから学習してきた高校生の「道民カレッジ手帳」は、表紙が白色ではなくゴールドになるなどの特典があり、一斉に一般の学習システムでスタートするということも考えられるかと思ひます。

一般の方と同じ学習をした時間の単位のみを移行するのは、問題ないかと思ひます。
- 基本的には、小中学生を対象としている講座をジュニアコースとしていますが、講座によりましては、参加対象が小学生から大人までというものもあります。そのような場合は、小中学生には、ジュニアコースの単位を認定し、一般の方には、その学習内容になったコースの単位を認定しています。
- 例えば、ジュニアコースのみの単位は、移行せずにそのままにしておいて、小学生から一般までが対象となった講座の単位のみを移行するということは可能なのでしょうか。
- 不可能ではありませんが、何千人もの受講者の受講歴を確認するのは、難しい作業になります。
- 高校生になった時点でみんなが同じスタートラインでというお話でしたが、小中学生で頑張った子供たちに選択単位へ 34 単位と言わないまでもいくらかの単位を移行するのか、全く移行しないのか。そのあたりのニュアンスはいかがでしょうか。
- 全く移行しない、ゼロということではありません。単位移行の例示では、ジュニアコースで 150 単位や 200 単位も取得し、一般に移行した時に、必修の 6 単位のみで一般の学士を取得できてしまうケースもありましたね。
- 今、意見交換をしてきましたが、小中学生時代に頑張ってきたことをどのように認めて、一般へつないでいくのか、また、高校生や社会人になってから、道民カレッジで学習していこうという人の意欲をそがないためのバランスをどのように取っていくのかという点がポイントになることが見えてきました。

あと部会は 2 回開催される予定です。このほかにも検討しなくてはいけないことがあるかと思ひますがこの点を中心に次回以降、さらに議論できればと思ひます。本日の部会でほかに確認しておくことはあるでしょうか。

- ジュニアから一般へ移行した際の単位移行は、ゼロでないということによろしいでしょうか。そのあたりを含めて、次回の部会で再提案させていただきます。
- 少なくともこの議論の中では、移行単位をゼロにすべきだという御意見はなかったと思ひます。そのあたりを含めて、次回の部会で再度、検討いたしましょう。

②「生涯学習の振興に関する基礎調査」における項目について

- (生涯学習の振興に関する基礎調査の項立て及び具体的な掲載データについて説明)
- データベースとありますが、冊子のような形になるのでしょうか。
- 紙媒体になります。

- Web 配信したときは、PDF でダウンロードする形ですね。何ページぐらいになるのでしょうか。
- 現在、データを収集していますので、ページ数は予想がついていません。
- 大体のページ数でよろしいです。何百ページなのか、何千ページになるのか、または、数十ページに要約したいのか。だいたいのイメージで結構です。

つまり掲載する項目について意見を求められていますので、ページ数の上限のイメージがあれば、項目の削除についても検討することができるかと考えます。
- 基本的には、Web 配信するものですから、ページ数の上限は考えていませんでした。数百ページ単位ではなく、百ページぐらいかと想定しています。
- 資料 5-3 にあがっているものは、不必要であると意見がない場合は、データ掲載されるということですね。ひとつの項目につき 1、2 ページというイメージでしょうか。
- そこまでにはならないと思います。グラフ等でわかりやすく提示させていただきたいと考えています。
- 掲載データの項目の決定につきまして期限はありますか。この場で意見を申し上げたほうがよろしいですか。
- 資料 5-3 をお持ち帰りいただき、今月末を目処に御意見がございましたら、御連絡いただきたいと思います。

(3) 報告

①連携講座新規団体の申請について

- (平成 27 年度前期新規団体 18 団体の申請を報告)

②平成 27 年度後期道民カレッジ指定講座について

- (平成 27 年度後期指定講座一般対象 21 講座、ジュニア対象 34 講座の申請を報告)

ほかに御意見等がなければ、以上を持ちまして、本日の審議を終了いたします。